

富士見町子ども読書活動推進計画

(第3次)

「本と遊び、本に学ぶ」子どもを育てる

令和2年4月

富士見町

富士見町教育委員会

目 次

第1章 計画の策定にあたっての基本的な考え方と目的	1
1. 目 的	
2. 推進委員会の責務	
3. 対 象	
4. 期 間	
5. 留意点	
第2章 計画策定の方針	1
1. 現状課題	
2. 基本目標	
3. 基本方針	
第3章 富士見町子ども読書活動推進委員会の活動経過	2
第4章 子ども読書活動推進のための方策	
1. 保育園における子ども読書活動の推進	3
2. 学校における子ども読書活動の推進	
○小学校	4
○中学校	5
○高校	6
3. 自主活動グループにおける読書活動の推進	
○ふじみ子どもの本の会	7
○富士見朗読の会	8
4. 町図書館における子ども読書活動の推進	9

第1章 計画の策定にあたっての基本的な考え方と目的

1. 目的

読書は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものであることにかんがみ、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう環境の整備を推進する。

この計画は、平成27年4月に策定した「富士見町子ども読書活動推進計画（第2次）」の取組の成果と課題を踏まえて、令和2年4月から5年間を計画期間とする町、各学校、保育園、読書ボランティア等による、子どもの読書活動を推進するための指針とするものである。

2. 推進委員会の責務

町の子どもたちが豊かな心を持ってたくましく成長するために、早い時期からの取組や、自主的な読書活動をし、子どもたちが読書の楽しさを知り、読書活動を広げ、更に深めていけるように、家庭・保育園・学校・地域が連携し、町全体で取組んでいけるよう、読書環境の整備と、更に読書活動の進捗により推進計画の策定、および計画の推進を行う。又、次のステップに進むことができるよう環境を整え、活動実績結果から次計画を作成していかなければならない。

3. 対象

子ども（おおむね18歳以下のものをいう。以下同じ）
国の「子ども」の対象と同様にする。児童福祉法で「子ども」は18歳未満を指す。
本活動推進計画においては、子どもたちの発達過程に沿った内容の為、各保育園、各小中学校、高等学校、各ボランティア、公共施設（町図書館）を対象としており、それぞれに対して策定してある。

4. 期間

令和2年度～令和6年度までの5年間を計画の期間とする。
（令和2年4月1日～令和7年3月31日）

5. 留意点

必要に応じて見直しをしながら推進をする。

第2章 計画策定の方針

1. 現状課題

・子どもは読書を通じて読解力や想像力、思考力、表現力等を養うとともに、多くの知識を得たり、多様な文化を理解したりすることができるようになる。しかし、近年は情報機器が普及し、読書環境が著しく変化している。例えば、スマートフォンや、それを活用したSNS等の情報ツールの多様化が、子どもの読書環境にも大きな影響を与えている。そのような生活スタイルの変化による影響は、確実に読書離れを助長していくものである。そして更に、学校段階が上がるにつれ、子どもが読書をしなくなる、遠ざかるという傾向も依然としてある。社会構造の中では、少子高齢化、生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や増々高度化していく技術革新により社会も大きく急速に変化し、災害も含めると予測が困難な時代になっている。子どもたちはその様な変化に積極的に向き合い、難しい課題を解決していくことや多種多様な情報を見極めていかなければならず、複雑な状況変化の中で目的を構築して生きていくことが求められる。読書活動は、情報を基に自分の考え方を表わし、新時代に生き抜く能力を育むという点からもその重要性が高まっている。子どもの読書活動を推進する上で、重要な関係をもつものとして、保育園・小中学校・高校、そして図書館や各団体のボランティアがある。家庭はその最も重要な位置にある。それらの関係者が連携協力した取組をより充実させていく必要がある。

2. 基本目標

「本と遊び、本に学ぶ」子どもを育てる

- ・子どもたちが本に親しみ、学ぶことや知ることに喜びを、読書活動を通じて感じることができる。
- ・本に対する興味を持ち、自ら進んで読書活動ができる。
- ・自分をとりまく世界とのつながりを、読書活動を通して感じ、世界観を拓ける。
- ・読書活動を通して得た情報や思考力、判断力、表現力を、人生に活かす。

3. 基本方針

①読書活動への子どもの意欲的態度「本と遊び、本に学ぶ」子どもの育成

- ・読書を習慣に、生涯の糧とするために、子どもの読書活動への意欲的態度を培うこと。
- ・早い時期から子どもたちが本に親しむ環境づくりや子どもが育つために読書推進の重要性を理解していくことを深める。
- ・子どもの読書への関心を高めるために、個人の読書経験や興味に寄り添いながら本を紹介する。

②家庭・保育園・学校・地域による子ども読書活動の推進

- ・本に親しむことができる環境づくりを進めるため、関係機関やボランティア団体等が綿密に連携して、相互の協力による取り組みを推進する。
- ・図書館以外の社会教育施設等との連携強化を進める。
- ・「読んでもらい楽しむ」ことから、「自分で読み楽しむこと」へのスムーズな移行とともに、本に触れる時間の確保が大切。関係各団体が役割を果たし、連携を持った取り組みをする。

③子ども読書活動への啓発

- ・子どもの楽しく意欲的な読書活動を推進する環境作りのため、子どもの読書活動を実施する意義・重要性についての普及・啓発をする。
- ・「子ども読書の日」の趣旨に合う行事を実施し、具体的な啓発活動を展開する。
- ・子どもの読書活動の実態や情報を収集し、啓発活動に活かすような取組をする。

第3章 富士見町子ども読書活動推進委員会の活動経過

- ・ 平成22年4月 「富士見町子ども読書活動推進計画（第1次）」策定
- ・ 平成23年4月 リーフレット完成・配布
- ・ 平成24年2月 図書袋の配布
(平成23年以降に誕生した町内の子どもの名前での図書館カード登録者)
- ・ 平成25年2月 「家庭読書の日」(毎月第3日曜日) 制定
- ・ 平成27年4月 「富士見町子ども読書活動推進計画（第2次）」策定
- ・ 平成27年4月 新リーフレット完成・配布
- ・ 平成28年3月 「家庭読書の日」カード製作
- ・ 平成28年4月 「家庭読書の日」カード実施
- ・ 令和2年4月 「富士見町子ども読書活動推進計画（第3次）」策定

第4章 子ども読書活動推進のための方策

1. 保育園における子ども読書活動の推進

【保育園】

課題

- ① 子どもが絵本に興味を持てるような環境づくり
- ② 読み聞かせの大切さを知らせるための保護者への啓発

現状と実績

- ① 子どもが絵本に興味を持てるような環境づくり
 - ・絵本との出会いが良いものになるよう、絵本コーナーや各クラスの本棚等に様々な絵本を置き、子ども達は、いつでも手にして見ることができる。
 - ・毎日読み聞かせを行い、楽しみな時間になっている。保護者やボランティアの会、地域の方等にも読み聞かせをしていただいている園もある。
 - ・大勢の中では絵本に集中できない子もいて、その際には個別に配慮をしている。
 - ・図書館に近い園では、年長児が定期的に行って読み聞かせをしてもらったり、絵本を借りたりし、幅広く絵本に親しんでいる。子ども達は図書館を身近にし、その使い方を知ると共に、物を大切に作る心、公共マナーが育つ良い機会にもなっている。
 - ・図書館から遠い園では、出前おはなし会に来ていただいたり、園でまとめて絵本を借りたりするなどの活動をしている。今後も図書館との連携が大切である。
- ② 読み聞かせの大切さを知らせるための保護者への啓発
 - ・家庭では絵本に親しんでいる子と、そうではない子の差が大きい。保護者のスマホやPC依存が加速する中で絵本離れは進んでいる。お便りや参観日など折に触れ読み聞かせの大切さを保護者に伝えている。
 - ・毎週金曜日は園児が自分で選んだ本を家庭に貸し出しをしている。
 - ・家庭読書の日を月暦に入れ、保護者に伝えると共に、読書カードを利用し、保護者に感想を書いてもらう。又、学年の終わりにはカードを作品帳の1ページに綴じ、思い出として家庭に渡す。

今後の方策

- ① 子どもが絵本に興味を持てるような環境づくり
 - ・毎日全クラスで読み聞かせをする。年齢・発達・季節等に応じた絵本を選択し、子どもたちの興味・関心を尊重しながら楽しめる工夫をする。
 - ・絵本の整理や、おススメの絵本コーナー作りをし、環境を整える。
 - ・図書館職員やボランティアの方等いろいろな方に絵本を読んでもらう機会を持つ。
 - ・保育士が絵本に親しみ、研修会などに参加して絵本についての知識を高める。
 - ・図書館との連携を図り、絵本に触れる機会を多くする。
- ② 読み聞かせの大切さを知らせるための保護者への啓発
 - ・園便り・クラス便り・読書カード・展示等を通じ、絵本の紹介をし、読み聞かせの大切さを伝えていく。
 - ・参観日に読み聞かせを行い、その良さ、やり方を保護者に体験してもらう。
 - ・週に1回絵本の貸し出しを行って、家庭でお家の方と一緒に本に親しんでもらえるようにする。
 - ・保護者の中で読み聞かせに来てくださる方を募る。
 - ・未就園児の会で読み聞かせを行い、その楽しさや親子の触れ合いの時間の大切さを早期から啓発する。

第4章 子ども読書活動推進のための方策

2. 学校における子ども読書活動の推進

【小学校】

課題

① 読書センターとして

- ・学年に応じた内容の図書を選べない児童や、本を読む児童と読まない児童の差が高学年になるほど大きい。
- ・家庭での読書の時間が少ない。習い事やゲーム、更にスマートフォンによる時間の使い方が多様化している。
- ・図書資料の充実(十分な予算化)

② 学習・情報センターとして

- ・インターネットなど図書館内への導入。(図書館設備は学校によって差がある)
- ・資料活用、タブレットの利用、パソコン室と図書館を往来しての調べ学習の充実。

現状と実績

① 読書センターとして

- ・学校図書館指導員が各校に配置され、管理面でも環境面でも利用しやすい図書館になっている。
- ・教師、保護者、図書館指導員などの読み聞かせは好んで熱心に聞くことができる。
- ・国語教科書でも読書を大切に考え本の紹介がたくさんあるが、予算の都合により購入が難しい。

② 学習・情報センターとして

- ・これまで「なにを調べて良いのか分からない」「どこに本があるのか分からない」「本のどこに知りたいことが書かれているか分からない」など調べ方が分からない児童が多かったが、何度か調べ学習を行っていくうちに上手に調べられる児童も増えてきた。
- ・読書旬間では、子どもたちが本の楽しさを味わえるような企画をしている。
- ・学校図書館法における冊数の基準に達してはいるが、古い図書や差し替えが必要なほど劣化している図書が多く、図書が充実しているとは言えない。また、調べ学習に活用する図鑑が古く、新しくしたくても予算が足りない現状にある。
- ・1日の中に読書の時間を位置づけ、本に親しむ機会を設けている。
- ・第3日曜日を家庭読書の日として位置づけ、富士見町家庭読書カードを使って、全校で取り組んでいる。
- ・図書活用が成される単位では、図書の学級貸し出しが可能となり、実施している。
- ・町で実施している読書チャンピオンが子どもたちの読書の意欲につながっている。

今後の方策

① 読書センターとして

- ・子どもたちから、おすすめ本などを発信する場を設けていく。
- ・教師、ボランティア、保護者の読み聞かせを通し、様々な図書を紹介し、読書の楽しさを伝えていく。
- ・読書が位置付くように、学校だけでなく家庭でも読書の時間を設けてもらうよう呼びかけていく。

② 学習・情報センターとして

- ・各学年でつけるべき力を明確にし、資料の探し方・集め方・選び方・記録の取り方・比較検討・情報のまとめ方等を学ばせるための計画を、図書館教育の担当が主導で立案し、運営していく。

③ その他

- ・教師に図書館教育を理解してもらうための職員研修を設け、積極的に図書館を活用してもらうようにする。
- ・各校の格差をなくすため、学校の図書館教育の担当者会を設け、情報交換をしながら進めていく。

第4章 子ども読書活動推進のための方策

2. 学校における子ども読書活動の推進

【中学校】

課題

① 図書館に行く時間がない

・授業準備や移動教室などでなかなか図書館に行く時間がないこと、休み時間は、生徒の委員会活動、行事に向けた取り組みがあること、友だちと過ごす時間を楽しみたいなど、図書館へ足を運ぶことについて優先順位が低くなってしまうことがあげられる。

② 家にある本を読むことが多い

・休み時間や給食後の空き時間などの隙間の時間を使って読書をする姿が全校でみられる。しかし、生徒たちの多くは自分で購入した本を読むことが多いようである。

③ 図書館を活用しきれていない

・本を読むこと、借りることは好きだが、「返却する」行為が面倒くさいイメージがあり、本を借りなくなる。

④ 帰宅後、読書する時間がもてない

・生徒は、帰宅後も塾や習い事、家庭学習等やるべきことが多く、なかなか読書をする時間がない。

⑤ 小さい頃から読書する習慣が身につけていない

・④のような状況やタブレットやゲーム等に親しんできた生徒が多い。

⑥ 学校で図書館を活用する場を設定しづらい

・ICT教育がすすめられており、紙媒体から情報・資料を集める機会を設定しづらい。

現状と実績

① 図書館に行く時間がない

・読書週間・旬間で、クラスごとに朝読書時の図書館開放日を設けた。また、旬間中にはおすすめ本の紹介やスタンプチャンス(スタンプが集まると景品がもらえる)、クラス貸出冊数レースなど、委員会活動でも足を運んでもらう工夫をしている。

・階段の踊り場に、図書委員会・顧問が季節や生徒の興味・関心に沿った本の紹介コーナーを設置し、新しい本との出会いを演出してきた。読み語りでボランティアさんに本を紹介をしていただいたり、ブックトークで紹介された本を入荷したりしている。

② 家にある本を読むことが多い

・階段の踊り場に新着図書を置き、図書館に行かなくてもそれらを手に入る機会をつくっている。また、委員によるおすすめ本紹介を通年で行うことで、魅力的な本が図書館にあることを伝えている。

③ 図書館を活用しきれていない

・インターネットにはない富士見町や諏訪地域の歴史を調べるために活用する場面があった地域関連の本を入れたり、なるべく生徒の学習に沿った本を入れたりしているが、それ程出版されていないため、今後の課題でもある。

今後の方策

・多くの本に親しむ機会を設ける。(学年毎・学年図書委員の活動で学年独自の読書に対する関心を増やしている)

・朝読書や委員会活動をする。(おすすめ本の紹介やクラスの貸し出し冊数調べなど行って掲示している)

・読み語りボランティアの協力を呼びかける。(保護者ボランティアを増やしていく)

・総合的な学習の時間・教科学習で図書館を活用する機会を設ける。

・学年の廊下に返却BOXを設置する。

第4章 子ども読書活動推進のための方策

2. 学校における子ども読書活動の推進

【高校】

課題

- ・多くの生徒が学ぶこと、知ることに消極的である。また、文字を読んで理解すること自体が難しい生徒もいる。

現状と実績

- ・月1回程度、朝の読書の時間に各クラスを訪問し、ブックトークを実施している。
- ・概ね静かに耳を傾けることができる。自習時間の様子などを見ていると、「図書館が嫌い」という生徒はいないようである。
- ・貸出も増加傾向にある。

今後の方策

- ・図書館の利用を勧め、読書活動の推進を図る。
- ・町図書館からの借用を一層有効に活用し、読書の幅を広げる。
- ・小中学校図書館との情報交換や連携を通じて、継続的な読書活動について考える。
- ・読書以外の図書館の活用方法についてもPRする。
- ・生徒にとって魅力のある図書資料を揃え、身近なもの、趣味に沿ったものからでも読んで知る喜びに出会う場所となる。
- ・授業内容に沿った図書資料を揃え、授業のなかで問題を解決する場としての図書館を体験させる。
- ・町図書館の利用を勧め、読書の幅を広げる。
- ・諏訪養護学校分教室の開校を機に、インクルーシブ教育の観点から図書館を見直す。
- ・安心して過ごせる、クラスの外で仲間を作れる場所としての図書館の居場所的環境を守る。
- ・2020年度長野県学校図書館協議会(県SLA)の事務局校としての全県の会議を主宰する。
図書館やコミュニティセンターをお借りして、地域に還元できるような運営をめざす。

3. 自主活動グループにおける読書活動の推進

【ふじみ子どもの本の会】

課題

・子どもたちに「本は楽しい！面白い！役に立つ！」と伝え、心豊かに育つことを願っての読書ボランティア活動のあり方

現状と実績

- ・町図書館で第4土曜日以外「土曜日のおはなし会」開催
- ・図書館主催の行事への協力
(子ども読書の日スペシャル、図書館まつり、クリスマスおはなし会)
- ・依頼のあった学校での「読み聞かせ」や「出前おはなし会」を行う。
(H30年 富士見小学校 境小学校 本郷小学校 富士見中学校 諏訪養護学校)
- ・土曜日のおはなし会や図書館行事等でのおはなし会が定着してきている。
特にクリスマスおはなし会は、子供たちやお母さんお父さんだけでなく、お孫さんとの参加もあり、毎年たくさんの方が来られるようになった。
- ・学校での読み聞かせを長年続けてきたことがきっかけとなり、町内全ての学校でお母さんたちや地域の方が入る「読み聞かせ」の体制が整ってきた。
- ・読書の楽しさを広げるため、「よんでみない?!」を発行し、いろいろな本を紹介する。

今後の方策

- ・土曜日のおはなし会は、始めたころに比べ低年齢の子供が多くなってきたので、もう少し幅広い子どもと大人の参加を呼び掛けたい。
- ・読み聞かせだけでなく、本の紹介や大きなおはなし会向けのプログラムについても考えていきたい。
- ・マンネリ化を防ぎ、新しい本を知り、良い本を選書する目を養えるよう、会員相互の研修会を開く。
- ・外部研修・講座等の情報も共有して参加し、読み聞かせの技術向上に努める。
- ・町内の各保育園での、読み聞かせにも協力していきたい。

3. 自主活動グループにおける読書活動の推進

【富士見朗読の会】

課題

- ・内面豊かな語り手を目指し、ジャンルに限らず「読む・語る」の勉強を継続する。
- ・依頼される機関へ応じていく。
- ・教育機関にさらに理解を求め「ふじみ町の民話」「方言」の伝承活動を行う。
- ・会の存在と性質を、教育機関・図書館・施設機関・町民へ広くアピールするとともに、各々の朗読マナーの向上と自己満足にならない朗読活動を行う。

現状と実績

- ・「朗読勉強会」月3回
- ・平成30年度は、平岩弓枝作「ちっちゃなかみさん」・地域の民話・子供向け優良図書の勉強
- ・定期活動 本郷小学校(年1～2回—2学年ずつ)
- ・不定期活動 男女共同参画週間に参加
川崎市立小学校5年生(川崎市八ヶ岳少年自然の家にて)
川崎市立中学校1年生(川崎市八ヶ岳少年自然の家にて)
富士見中学校
境小学校
町図書館まつり

今後の方策

- ・今後も内面豊かなより良い語り手を目指し、ジャンルを限らず「読む・語る」の勉強、発表を継続する。
- ・依頼される機関へ、積極的に応じていく。
- ・教育機関にさらに理解を求め「ふじみ町の民話」「方言」の伝承活動を行う。

第4章 子ども読書活動推進のための方策

4. 町図書館における子ども読書活動の推進

【町図書館】

課題

① 自主活動グループ・保健センター・保育園・学校・書店との連携

② 絵本や読書に関心を持つ環境づくり

現状と実績

① 自主活動グループ・保健センター・保育園・学校・書店との連携

- ・毎週火曜日・土曜日のおはなし会開催:自主活動グループとの連携
- ・乳幼児健診のおはなし会・図書館の紹介:保健センターとの連携
- ・富士見中学校・富士見小学校・諏訪養護学校・富士見保育園・西山保育園・境保育園・本郷小学校
出前又は、館内来館時等読み聞かせ:保育園・学校との連携

② 絵本や読書に関心を持つ環境づくり

- ・親子で参加、幼児～大人まで参加できる参加型のおはなし会、イベントの開催(約50回:平成30年度統計)
- ・テーマコーナーの設置(児童3・一般3・入口1)
- ・入館者数年間 約16万人(平成30年度統計)
- ・年間総貸出冊数 約22万3千冊(平成30年度統計)
- ・蔵書数 約15万冊(平成30年末度統計)

今後の方策

① 自主活動グループ・保健センター・保育園・学校・書店との連携

- ・子ども読書活動推進委員会の開催により連携を強化していく。
- ・学校図書館連携システムの構築により児童生徒の貸出サービス向上を図る。
- ・自主活動グループ・保健センター・保育園・学校・書店との連携をとり、資料提供を行う。
- ・保育園、学校、保健センターへ出向いての読み聞かせの実施。

② 絵本や読書に関心を持つ環境づくり

- ・ブック案内作成・読み聞かせ実施・読み聞かせ実施者の育成。
- ・本と触れ合うきっかけづくり。(7か月・10ヶ月検診読み聞かせ、ファーストブック案内)
- ・毎月第3日曜日を「家庭読書の日」と位置付け、貸し出し冊数を20冊まで増やし、利用者へより良い環境を提供する。
- ・おはなし会の内容を充実、ひろくPRしていく。
- ・家庭への環境づくりを呼び掛ける。(家庭読書カードの活用)
- ・セルフ貸出機によるスムーズな対応の提供。
- ・ホームページをさらに整備することにより、図書館利用者へのサービスをよりよいものにしていく。
- ・イベント内容をより興味あるものに企画し、図書館への関心を高める。
- ・講座・研修の機会を設け、よりよい読書環境を提案していく。